

第1回なかい戦略みらい会議 議事概要

日時:平成27年7月29 日(水)

午前10時00分～12時00分

会場:中井町役場 3 階 3A 会議室

【会議次第】

(開 会)

1. あいさつ
2. なかい戦略みらい会議の設置について(資料1～3)
3. 座長、副座長選出
4. 議 題
 - 1) まち・ひと・しごと創生による人口ビジョンと総合戦略の策定について(資料4)
 - 2) 中井町の人口分析・将来人口推計と総合戦略で定めるべき事項について(資料5～8)
 - 3) 各種アンケート調査結果(速報)について(資料9)
 - 4) 「第1回まちづくりカフェ」の報告について(資料 10)
 - 5) 今後のスケジュールについて(資料 11)
5. その他
(閉会)

【議事概要】

1. あいさつ 中井町杉山町長よりあいさつ

○杉山町長: 皆さん、おはようございます。大変お暑いなか、また、ご多用中にも関わらず、中井町へお越しいただきありがとうございます。

中井町長の杉山でございます。開会にあたりご挨拶申し上げます。

本日は、「なかい戦略みらい会議」にご出席いただきましてありがとうございます。

さて、私から今さら申し上げる迄もございませんが、昨年暮れに「まち・ひと・しごと創生法」が施行され、すべての都道府県と市町村に「人口ビジョン」と、「総合戦略」の策定が義務付けられました。

これを受けて、全国の自治体が今年度中の策定をめざし、一斉に、地域の個性を活かした計画づくりが行われているところです。

本町においても、中井町に関わりのある有識者皆さまの賛同を得て、本日、第 1 回目の会議をここに開催させていただく訳でございます。

町では、産業、教育、金融、メディアなどの幅広い関係者による推進組織の設置は初めてのことであり、ここでの議論の行く末に、大変、興味を持っております。

町がめざすシティセールス、シティプロモーションについても、有益な示唆をいただけるのではないかと勝手に期待を膨らませています。

委員の皆様が、日頃から感じていられる町の課題や、連携して取り組むことで、より大きな成果が得られるといったまちづくりへの提言を、是非、いただければと思います。

人口ビジョンと地方版総合戦略の策定をきっかけに、ここにお集まりの皆さんの縁が深まり、ひいては町の発展に繋がることを祈念いたしまして主宰者の挨拶とさせていただきます。本日はよろしく申し上げます。

(町長はあいさつ後、公務のため退席)

2. なかい戦略みらい会議の設置について(資料1～3)

資料1～3により、事務局から「なかい戦略みらい会議」の設置目的、構成委員、検討体制について説明後、各委員から自己紹介

3. 座長、副座長選出

「なかい戦略みらい会議設置要綱」(資料1)第4条に基づき、委員から座長の選出を求めた結果、座長の選出については事務局に一任
事務局案として座長に杉本委員(東海大学工学部建築学科教授)を選出

— 承認 —

副座長には杉本座長から大槻委員(テルモ(株))を指名

— 承認 —

○事務局: 座長より一言ごあいさつをお願いします。

○杉本座長: 杉本でございます。大学で建築を教えておりますが、建築分野の中でも主に木造建築を中心に研究しております。木造建築について、日本は大変資源豊富ですが、地域の活力を創るという意味でも、木の活用というのは大きなテーマです。そういった点も含め、まちづくりに携わっています。

中井町のすぐ隣に大学がありまして、通勤の際にはよく中井町を通りますが、なかなか町の中を見る機会がない。町内には産業も多く立地しており、素晴らしいゴルフ

場も2箇所ある。さらに運動公園もある。駅と海は無いが、素晴らしい里山がある。

今回の戦略では各市町村が、それぞれの地域の資産を発見して、どのように将来に繋げていくかということを考えていく必要がある。概ねの方向性を定めるだけでなく、しっかりと戦略としてできることを、この会議の中で議論して、中井の将来に向けて実効性ある提案をぜひ議論したい。

人口ビジョンも単に全体の数が増える減るというだけでなく、地域のどこに、どのような人達が住んでいるのか、どこの地区が増えて、どこの地区が減っているのかといった点も含め、かなり詳細に町を見ながら戦略を策定していく必要があると考えております。

ぜひ、委員の皆様にはそれぞれの専門分野から忌憚のないご意見をいただきたいと考えているので、よろしくお願いします。

4. 議 題

1) まち・ひと・しごと創生による人口ビジョンと総合戦略の策定について(資料4)

○事務局: 資料4により説明

○杉本座長: ご質問などはございますか。特に無いようですので、次の議題に移らせていただきます。

2) 中井町の人口分析・将来人口推計と総合戦略で定めるべき事項について(資料5～8)

○事務局: 資料5～8により説明

○杉本座長: 事務局から、様々なデータが披露されましたので、これに関して各委員から感想やご意見などを伺いたいと思います。座席順に平野委員からお願いします。

○平野委員: 従業員の抱える問題として、子育てや介護の問題がある。例えば子どもの送り迎えや、買い物などは時間のやりくりをする必要がある主婦の方々にとっては重要な要素だと感じます。また、こういった点を身近なところで解決できるというのが、働きやすい環境のひとつではないかと感じます。

○杉本座長: 従業員の方はこのエリアに住んでいる方が多いのでしょうか。それとも外から来られている方が多いのでしょうか。

○平野委員: 外から来ている方も多いと思います。

- 杉本座長： そういった方には、何か中井に住みたくないという理由のようなものはあるのでしょうか。
- 平野委員： 住みたくないというわけでは無いと思いますが。
- 杉本座長： 会社と住まいが近いというのも、メリットがある気もしますが。
- 平野委員： そうですね。しかし現状は、近隣市町村からの割合の方が高いと感じます。
- 杉本座長： 共働きの方の割合は多いのでしょうか。
- 平野委員： 多いと思います。
- 杉本座長： 奥さんの働く場所と、旦那さんが働く場所の関係がありそうですね。
- 平野委員： そうですね。
- 杉本座長： わかりました。ありがとうございます。では次に吉田委員をお願いします。
- 吉田委員： まちづくり白書(資料5)の説明から、定住意向が近隣団体と比べ低いということと出生率が低いということがデータとしてよくわかりました。
県西地域では2つの市と8つの町があるが、人口の移動の内容的には、どこから転入してきて、どこに転出していくのかという点について、掘り下げて考えていく必要があると感じます。県西地域だけで、人を取り合っても仕方がないと思いますし、例えば横浜や都内から魅力を感じて、こちらに住んでいただくような戦略を考えていくべきではないでしょうか。
- 杉本座長： おっしゃるとおり、県内で移動する場合、県外から移動する場合と、いろいろなパターンがあると思います。
- 吉田委員： 移動の実態がわかるとよいと思います。それから若い女性の方が少ないというのがデータ上では顕著に表れていると感じました。
- 杉本座長： ありがとうございます。では、次に加藤委員をお願いします。
- 加藤委員： 平成の初め頃、中井町では企業誘致ということで、グリーンテクという工業団地

を整備しました。働く場所と住む場所を接近させるという思いもあり、取り組んできた経緯もありますが、実態としてはなかなか、それが結果に結びついていない面もあります。先ほど杉本座長からのお話にもありましたが、駅や交通など総合的な課題もあると考えています。

また、統計的な面では出生率が下がり、高齢化率が上がる。生まれた子どもが結果として町内で働くのではなく、外に出てしまう。これらを踏まえると、いかに中井町の魅力を発信していくのか、また将来的にみれば子育て世帯の環境をどうしていくべきかという課題もあると認識しています。皆さんと議論して、課題の解決を図りながら前に進めると良いと考えています。

○杉本座長： グリーンテクはかなり企業が埋まっていますよね。そういった意味では、ある程度の成果は得られたのではないのでしょうか。

○加藤委員： 表向きは埋まっていますが、計画上は2期、3期という工事があったものの、なかなかそこまで至らなかった。まちづくりの中で、職住近接については町としても考えてはありました。

○杉本座長： 圏央道や第二東名整備による効果は何か考えられるのでしょうか。産業の立地などにプラスになるのではないのでしょうか。

○加藤委員： 逆に圏央道の整備によって、そちらに引っ張られている面が若干あるのではないかと感じています。

町としても将来的な面でいえば、秦野中井インターというのは、将来246バイパスがジャンクションになるということもありますので、大きな意味ではそういったところで活用できる部分はあるのではと考えています。

○杉本座長： 防災面では、町としてはどのような安心安全のための取組を行っているのでしょうか。

○加藤委員： 色々基礎づくりをさせていただいていますが、具体的にこうしないといけないというものは、なかなか見えてこないもので、いずれにしても拠点の整備をしなければならないと考えています。

ご承知のとおり、中井町には大きな山や川があるわけではない。最近では警報がすぐに出る状況にあるが、温暖で降水量も比較的少ない。ただ、油断してはいけないというのは常に頭にありますので、しっかりとした取組をしていかなければならないと考えています。

○杉本座長： もう一点、医療についてはいかがでしょうか。

○加藤委員： 身近な医療環境という意味では、特に中村地区では厳しい状況にあります。井ノ口地区では老人施設の中に新たに1箇所できましたが、総合的な面では、やはり秦野日赤病院あるいは東海大学病院に負うところが多い。行政的には足柄上病院もあるが、交通の便などを考えると、やはりどうしても東方面に向かう人が多いのが現状です。

○杉本座長： ありがとうございます。子育ての環境という面からも医療というのは大きい部分があると感じます。次に河井委員お願いします。

○河井委員： この戦略みらい会議の目的の明確化が必要と感じます。思いつきをバラバラと出し合うだけでなく、最終的に、この戦略みらい会議はどうなったら成功なのかという点を明確化すべきではないでしょうか。設置要綱上は、この会議の設置目的は意見を反映させるためということが挙げられますが、そうであれば多様な意見を聞いていきますという場にしても良いでしょうし、一方で町民みらい会議のようなしっかり動いている組織があり、なおかつ総合計画審議会という更に上位の組織もあります。その中で、戦略みらい会議をどのような位置付けにしていくのかを明確にしていかなないと、参加される委員の皆さんも、どういったポジションで発言すれば良いのかがはっきりしないのではないのでしょうか。

中井町をどんな町にしていきたいのかという点についての議論をこの場でするのか、それとも、それは総合計画審議会などで議論をしていくので、この場では人口を維持・向上させるということに絞って進めていくということなのか。

また、先ほどの事務局からのご説明で、KPI(Key Performance Indicator:重要業績評価指標)のお話がでしたが、KPIがあつてKGI(Key Goal Indicator:重要目標達成指標)の無い計画というのは通常あり得ないと思います。個別にKPIにより管理していくとともに、最終的なゴールであるKGIを明確にしないまま、意見を出し合っても、国が期待する総合戦略はできて、助成はもらえるかもしれないが、本当に中井町をどういった町にしていくのか、先程、吉田委員のご発言にもありましたが、県西において最も魅力的な町になる。あるいは日本で最も魅力的な地域になるためには、どのような差別的優位性を持たせるのか、そうなると、お金も人も限られている現状では、全てを押し出していくわけにはいかないと思います。その上で、どこに焦点を当てていくのかというふうに考えていかないと、「あれもこれもあればいいよね」で終わってしまうのではないのでしょうか。

さらに、狙っていくのは定住人口と交流人口の増加でよいのかということは個人的に疑問に感じています。住んでくれさえすればよいのであれば、サービスを欲し

い人だけが増えるのではないのでしょうか。本日、まちづくりカフェからご参加いただいている瀬戸委員や、武田委員のように積極的に町に関わっていく人がどれだけ増えていくのかが、中井町にとって非常に重要だと感じます。そういった点からすると、人口を将来的に半分にしても良いというわけではありませんが、例えば現在の90%程度まで人口が減少したとしても、それぞれの住民の方々が、より一生懸命町のことを考える。あるいはこれまで行政が担ってきたことを、自分たちが肩代わりしていくんだという思いをもって、町をつくっていくことが、町の方向性を定める上で非常に関連が深いと思います。その点からすると住民の参画や、町の外に住んでいる人たちに中井町が大好きだ、例えば横浜に住んでいるけれども、中井町が気になる。そういった人たちをどのように生み出していか、いわゆる関与人口についても考慮していかないと、難しいのではないのでしょうか。

国が今回のまち・ひと・しごと創生法に期待しているのは、各市町村で推計した結果、人口はそれほど減りませんという結果を出してもらいたいという点にあると感じます。数字上、国が期待するような数字を出すだけであれば、いくらでも方法はあるとは思いますが、それを踏まえて今後の進行管理というのが非常に重要です。今後のマネジメントでどのように中井町を日本一の町にするのか、あるいはこの分野では世界一の町にするのか、だからこそ、この町にプライドが持てる。そういった状況をつくるためにどうしていけばいいのかということも考えていかないといけないのではないのでしょうか。この戦略みらい会議の設置要綱上の位置付けだけでは「いろいろな意見が出てよかったですね」で終わってしまう。その次の段階をどのようにマネジメント・デザインしていくかという発想を持つ必要があると思います。

後ほど時間がありましたら、今回「まち・ひと・しごと」の検討材料として、国から提供されている「RESAS」(地域経済分析システム)の活用のお考えなどについて事務局から伺いたしたいと思います。中井町の場合は企業立地が非常にしっかりしているので、「REASA」を使って、企業がどこの地域と連携しているかなどを分析した上で、どこの自治体と組むのかといった議論も出てくるかと思っています。

人口ビジョンについても、ただ人口が減っていきますという、どこでも使える数字、どこでも使える計画を用意するのではなく、中井町だからこそその計画をどのように創るのかという腹構えをしながら、ご提案をしていただきたいと思います。

○事務局: 「RESAS」は行政しか使用できないという点と、もう一点、企業の個別データを扱っており、国やデータ提供元の帝国データバンクの承諾を得ないと使えない内容もあります。また、企業の本社のデータは閲覧することができるものの、中井町にあるような事業所単位でのデータの把握ができないという点で、実際のところ、あまり使い勝手が良くないものと感じます。

○河井委員： そういった意味ですと、中井町として単純に県西地域だけで固まるのではなく、むしろ静岡の御殿場などとの連携であるとか、そういった話も出てくるのではないかと思います。

○杉本座長： 厳しい内容も含め明確なご意見をありがとうございました。私もそういった面で明らかにしていく必要があるとは感じます。公務ご多忙かとは思いますが、町長にも機会があればご意見を伺いたいと思います。続いて、三宅委員よろしくお願ひします。

○三宅委員： 先程、まちづくり白書(資料5)を拝見させていただいて、全ての指標がマイナスになっている。特に出生率については他市町村と比べても非常に低いという状況で、先程、加藤委員からお話のあった、中井町としてこれまで積極的に取り組んできたこととして、企業誘致があるということですが、人口減少、出生率の低下、高齢化という問題について、町で過去に取り組んできた対策を成功事例、失敗事例なども併せて伺いたいと思います。

○杉本座長： 私としても、中井町には立派なゴルフ場もある、企業立地もしっかりしている。他の町に比べたら非常に恵まれた状況にあると思いますが、ここまできた経緯について、もう少し詳しく見ればよいと思います。その上で、良いものは残していくべきですし、悪いものは今回の戦略の中では諦めて別の方向に向かった方がよいと思います。それでは、次に及川委員お願いします。

○及川委員： 各委員から色々なご意見がありましたが、町としては人口が減っている中で、逆に地区ごとに見ると、井ノ口中地区のように増えているところもあります。まず素朴な質問ですが、なぜだろうというのをお聞きしたい。

それから、我々、農協の方でも、町とタイアップして新規就農者、農業に携わりたいという方が、何名か町外から家族で来ておられます。私どもとしても、そういった方達に対してバックアップをさせていただいております。実際に中井町の魅力ということで聞くのですが、はっきりとした答えが聞けないことが多いので、もう少しこの点を掘り下げて、中井町の魅力は必ずあるはずですので、町の方から教えていただきたいと思います。決して嫌なら中井町に来ないはずですから、これも人口を増やす対策になるのではないかと感じます。

○杉本座長： ありがとうございます。歴史的な背景なども含めて、例えば農地がどれだけあるのかとか、そういった情報があまり外に出ていないようにも思います。

また、先程の地区別の人口の動態については、事務局との事前打ち合わせの際

に、本日の資料として出していただくよう依頼しましたが、中井町全体をひとつとして見るのではなく、エリアとして見ることで、増えているところについては原因を、減っているところについては対策を考えていくべきだと思います。

また、言い方は悪いですが、放置されている農地や未利用の農地の情報というものがあまり外に出ていないと思いますが、今の時代、そういったデータを出していくべきだと思います。それを見て就農したい人が利用したいということもあるでしょうし。

○及川委員： 個々の団体などではそういった情報を持っているのですが、それぞれのデータが違うというのが現実ですので、どれが正しいのかというのが分からないと思います。

○杉本座長： 都市計画などでは、農地の増減率は毎回チェックされていて、そういったものもデータとしてはあるでしょうし、私は第一次産業の方達とお会いする機会もありますが、林業などもあまりデータ化されていません。しっかり在庫管理ができていないものに、どうして戦略が立てられるのかと疑問に思います。林業などは、産業革命以前の状態でして、データというのは今の時代では非常に重要だと思います。データがあれば、中井町に農地がどれだけあるのか、そして、それらが全て耕作されたらどれだけ価値があるのかが数値化できます。もしそれができたとしたら、どれくらいの収入になるのかがシミュレーションできます。そういったことをやらず減っていく数字だけを見ていても何の戦略も生まれません。もし、そういったものが事務局の方で用意ができれば、全体でなくても構わないので、ある地区だけでもやってみる価値はあると思います。

○事務局： 今のお話ですが、3年程前から、農業委員会で耕作放棄地の調査を実施しております。また、確かにデータの的には毎年調査を行っておりますので、耕作地がどこにあるのかというのは環境経済課の方で持ち合わせております。そういったデータが現時点で表に出ているわけではないですが、新規就農を希望される方に対して、耕作放棄地の情報を、地主とも交渉してそういった土地を借りれるかというところまでデータ化はできておりますので、需要面と供給面でのお見合いができる状態にはなっております。

また、耕作放棄地については中井町の農地は580ヘクタールほどありますが、その内1割程度が不耕作となっている状況です。そのあたりのデータは別途次回会議などで提供させていただきます。

○杉本座長： そのあたりの状況も人口ビジョンの期間である2060年までの間にどうなるのか。要は次の世代の担い手がいなければ、当然耕作はされないわけですから、どのくらい減少していくのかということについても考えていく必要があると思います。

それでは次に、町民みらい会議(まちづくりカフェ)から武田委員をお願いします。

○武田委員： 先程の農業のお話で、私は農業委員をやっておりますが、中井町の農業は衰退の一途です。荒廃地も増えています。なぜこういった形で増えてしまっているのか、昨年、農地を所有している方に直接お会いして、今の状況について伺ってきましたが、ひとつは三世帯同居が多い。三世帯同居ということは昔から農業をされていた方が多いと思いますが、いわゆる後継者、次の世代の方がなかなか農業をやってくれない、なぜかという農業だけでは生活できないので、町外にサラリーマンとして働きに出てしまう。これからこの傾向は益々進むと思いますし、これによって後継者不足、荒廃地の増加、有害鳥獣の増加、農産物の生産減少、耕作地の減少というサイクルが生まれ、なかなか止められないのが現実です。

産業として農業が成り立てば、必ず農業は残っていくはずですが、中井町は作柄的にはなんでもできる平坦地ですから、ここでしかできないという作物はほとんどありません。果物、野菜、温室栽培、酪農も含め何でもできますし、環境的には非常に恵まれているにも関わらず、なかなか後継者が育たない。なぜかという人口減少の原因にも繋がるとは思います。駅がないなどの立地条件があると思います。また、子育て世代の状況は中学生まで医療費が無料など、非常に良い環境にあると思います。近隣の自治体でも、ここまでやっているところはあまり無いと思います。住む環境としては非常に良いですが、駄目なのは市街化区域が無く、住民を呼び寄せるための場所が無いことです。区画整理を行って、宅地化を進めるという方法がなかなか取れない。市街化区域が点在しているため、線引きや国との問題があるとは思いますが、例えば農地を宅地化していくなど地域として進めていかないと人口は増えないと考えています。

また、まちづくりカフェからの意見反映という点では、まだ一回目が終わったばかりですので、意見としてまとまっておりません。同じくまちづくりカフェの座長である瀬戸委員から率直な意見を発表していただきたいと思います。

○杉本座長： ありがとうございます。次に瀬戸委員をお願いします。

○瀬戸委員： これまでの各委員のご意見を伺った中で、私も河井委員がおっしゃるとおり、このままいくと、この戦略みらい会議では明確な成果が得られないものになるのではないかと感じました。

先程、武田委員からお話がありましたが、まちづくりカフェについては、こういった

取組は初めてだと思います。最初はメンバーの皆さんも戸惑って、意見も出にくい状況でしたが、話しをする中で、積極的に、具体的なテーマに沿って深掘りされていくような意見も出始めて、もっと長い時間やれば更に良い意見が出てきたのではないかと感じました。もう一点、まちづくりカフェには町の若手職員の方々も入っていましたが、悪いかどうかは別として意外と町のことを知らないなという印象を受けました。やむを得ないとも思いますが、町の若手職員は町のことをあまり知らない、我々はそのことを知らない、これを知っただけでも良い機会だったと思います。それから参加した感想としてはテレビよりずっとおもしろい。例えば悪いですが、非常に刺激的でした。最初は無口なメンバーの方も徐々に積極的に意見を出していただき、非常に良い内容で、もっとやったら良いと思いました。

○杉本座長： ありがとうございます。できればこの戦略みらい会議と一緒にできれば良いとは思っていましたので、ぜひそちらのご意見も反映していただくよう、よろしく申し上げます。それでは次に柏手委員をお願いします。

○柏手委員： 私は中井町には住んでおりませんが、現状分析や人口、定住意向、出生率などについて数字的には見させていただき、先程、河井委員がおっしゃったとおり、この会議は何について話しをしていくのか、もしいくつかテーマがあるのであれば、それを絞り込んで、何回かの会議の中で計画的に議論をしていく必要があると思いました。国の「まち・ひと・しごと創生法」で考えなさいと言われてるのはやはり人口減少対策で、それについて考えていくのが中心になっていくべきかというふうに思っております。

武田委員からのお話を伺って、農地には大きなポテンシャルがあって、人手があれば、農業は産業になりますということで、担い手が町外から入ってきて出荷する生産物が増えるというのもシティセールスになると思います。ただその後、生産物をいかに効率よく市場に出していくか、例えばスーパーなどと提携して計画生産していくとか、農協さんにはそういった点で大きな技術をお持ちでしょうし、そういった知恵を集めるのがこの会議であると思っています。我々は民間企業ですので、こういったことをやるのであれば、他の地域ではこういった事例がありますとかそういった点で、この会議で提案することが委員として参加する意味になると考えています。

○杉本座長： ありがとうございます。それでは次に大塚委員をお願いします。

○大塚委員： 「まち・ひと・しごと創生法」によって、県内でも今回のような会議が今月から多く開催されていて、実は私は、寒川町の委員にもなっておりまして第一回目の会議に出席してきましたが、数字こそ違えど出てくる資料はほぼ同じ傾向で、今週末は

箱根町の会議にも出席してきますが、恐らくまた、同じ傾向の資料が出てくるのではないかと思います。先程、河井委員もおっしゃいましたが、ただ人口の流出を止めて、流入を増やし、出生率を上げるためにはどうしたら良いのかというのはメインテーマでしょうけれども、それは他の自治体も考えることで、では他の地域から人を呼び込めば、確かに自分のところは良いのだけれど、他の地域はそれで良いのかといった視点からも考えていかないと、全体的に出生率を高めていくというのがやはり理想ではあると思いますが、その魅力をどのように創っていくのか。先程、中学生までの医療費が無料だというお話がありましたが、他の地域でも医療費もそうですし、給食費の助成や子育て世帯をターゲットとした取組を他の自治体でも進めています。どのように個性的な魅力を創っていくのかという点について具体的に考えていく必要があると考えています。また、町外から流入してもらうには、どのように提案していくべきなのか、この場で具体的に検討できると良いと思いますので、よろしくお願いします。

○杉本座長： ありがとうございます。それでは次に眞壁委員をお願いします。

○眞壁委員： 私はスポーツが本業ですが、やはり同じような形でテーマを与えられることも多いのですが、先程大塚委員がおっしゃったとおり、みんなが同じことを考えている印象を受けます。教育・未病・転出・転入、これらは神奈川県ですとどこでも出てくる言葉です。Jリーグのチームは52チームあって、地方都市もありますから、他のチームの方に聞いても、同じような会議に呼ばれても同じような内容のようです。悩ましいのは転入・転出というのは取り合うということですから、平塚の人たちはこっちに住んでくれ、中井の人は平塚からこっちに住んでくれということもあり得るわけです。国の制度が非常に大雑把というか、目指すところがよく分からないのですが、別件で二週間程前にスポーツの関係で副大臣とお会いする機会があり、そこでも先程の「RESAS」のPRをされましたが、例えば北海道でやる「RESAS」の分析と、中井町の「RESAS」の分析では天と地ほども状況が違うわけですし、全く統一化されていないわけです。それを国が材料を与えたから皆さんやってくださいというのに下手に踊らされてしまうと、今までこの町で頑張ってきた住民の方々にしてみると、なんだよという話になってしまうと思います。

いただいた資料の中でいうと人口動向分析(資料4 P6)が乗っていて、ここに明確に書いてありますが、北海道のブロック別の移動者数について、下の部分に南関東(1都3県)への転出の割合が高いと書かれています。したがって国の基準では、そもそも神奈川県は人が入ってきているのだから、もう入ってこなくていいんだというのがベースにあるので、決して中井町のことを考えて国は作っているわけはありません。この点を良く考えていかないといけないと思います。いずれにせよ、

転入・転出というのも考えてみると、中井町がこれをきっかけに、これから30年、50年と中井町はこんな町なんだという、町の看板になるようなものを考えていくのが一番良いのではないのでしょうか。先程のお話で、農地があるのであれば、法的には色々難しい面もありますが、新規に農業に参入したいという若い人はたくさんいますが、一般の人達はなかなか農地を持ってない、農地の隣に住みたいのだけれど家が無い。こういった課題を劇的に変えるものを柱にしてやっていくのが一番良いと思います。逆にそうしないと他と同じようなものになって、さらに国としては神奈川県は人が流入しているから、いいんだというのが根底にあると思うので、そのあたりをよく整理していかないと、非常に難しくなってしまうと思います。よろしければ「RESAS」についても、後程ご説明いただければと思います。

○杉本座長： ありがとうございます。その前に一点、スポーツの分野で中井の魅力を高めるようなご提案はありますか。

○眞壁委員： 中井のスポーツ公園は現在、ベルマーレで指定管理者をさせていただいていますが、運動公園として非常にレベルが高い。良い意味で何も無い。一時期バブルの頃、作られた公園では悪いことでは無いのですが、木を植えてしまったり、いわゆる使い勝手が悪い。中井の公園は非常にオープンで、残念ながら駅は無いですがけれども、高速道路も近く、今は少年団であるとか色々な大会はコーチや父兄が車で連れてくる時代ですから、そういった意味では非常にポテンシャルはあると思います。ただ、だからそのまま良いというわけではなく、例えば、週末だけ人に来てもらうのであればキャンプができるとか、一泊してスポーツができるようなことを考えれば、すぐに人は増えるというポテンシャルがあると思います。

○杉本座長： ありがとうございます。次に湯川委員をお願いします。

○湯川委員： 二宮郵便局の湯川と申します。よろしく申し上げます。実は今日、この会議の出席にあたって、社員に中井町のイメージを聞いてきました。一言でいうと地形的に山が邪魔だということでした。真ん中に山があつて、中村地区と井ノ口地区がはっきり分かれています。我々郵便局では新番と旧番というものがあつて、新番というのはいわゆる、何丁目、何番地というもの、旧番というのは昔ながらの何千番台というもので、中村地区側は比較的昔から住んでいる人が多く、旧番が多く、非常に配達がしにくいのですが、逆に昔から定住している方が多く、郵便も決まったところに配達することが多いので、一度覚えてしまえば間違えにくいという面もあります。逆に井ノ口地区の方は、新しい家がどんどん建設されていて、新しい人たちが入ってきている状況だと思います。荷物の配達時に中村地区は在宅率が高い

のですが、井ノ口地区では逆にお昼の配達時に仕事に出られている方が多いため、在宅率が低く、同じ町の中でも地域性が大きく分かれている印象があります。

また、郵便局でも現在、人手が不足しており、アルバイトの募集をしています。二宮郵便局で所管している二宮町、中井町、大磯町の中でも、募集に対する反応が大磯町、二宮町ではあるのですが、中井町からはあまりありません。これは大磯町、二宮町の方は、比較的近くで働く場所を求める傾向があるようなのに対して、中井町は車で通勤がメインだと思いますので、そういった面で逆に働く場所の選択肢が多いのではないかと思います。二宮町、大磯町の方は、電車・バスでの通勤が中心だと思うので、逆に選択肢が絞られるのではないのでしょうか。

また、二宮町と比べて、中井町は生活圏としては秦野市に近いですし、そういった面で人口の流出もそうですし、働く場もそちらに求めることが多いため、アルバイトの募集に関して反応が薄いのかと思います。そういった点からすると、中井町が抱えている問題というのは、まずどこで働いているのかということと、どこに住んでいるのかということ、掘り下げて議論していく必要があるのではないかと感じます。大井町に住んでいる職員に話を聞いてみたところ、大井町も環境としては、中井町とよく似ているのですが、大井町には中井町のグリーンテクのような商業地が少ない一方で、255号線沿いに商業施設が多くあり、就業場所も多いことから、働く場の近くに住むことができるのが違いだということです。その違いは255号線と秦野二宮線を見れば明らかで、秦野二宮線は、バイパスとして通るためだけの道路で、町のための道路というよりは近隣の方が通るための道路という側面が強いと思います。逆に255線の方は、小田原から秦野方面(246号線)まで、商業施設が多くあり、そこで買い物をしたり住むための道になっていると思います。そういったところで、先程から皆さんがおっしゃっているように、差別化という点で他との比較をすることで、それに対する対策などの方向性が見えてくるのではないかと考えています。

○杉本座長： ありがとうございます。地域が大きく二つに分かれているというのは、人口動態でも明らかです。秦野市に引っ張られている面も多分にあると感じます。先程湯川委員がおっしゃった「働く道と暮らしの道」というご意見は非常に興味深いと思います。それでは最後に大槻副座長をお願いします。

○大槻副座長： 皆さんがおっしゃっているように、どこにターゲットを置いて、何を実現していくのかを考えていくのは非常に難しいと感じますが、我々の実情を申しますと、現在の事業所には約800人が就業しております。それが全員中井町に住んでいればだいぶ違うなどはと思いますが、労働力、働く人の数というのはここ数年増加しているものの、これが居住人口と連動しているかということ、必ずしもそうではなく、中

井町ではなく、周辺に住む方が多いというのが実情です。やはり、我々としては町の行政・財政を崩さないためにも確実に成長していかないとけないというのが企業の使命であり、その中でも大切なのがバランスだと思います。我々のような産業という立場もありますが、それと併せて教育・生活・医療・交通なども成長していかないとバランスが崩れてしまい、却って住みにくい町になってしまうのではないかと気にしております。成長していくための必須条件として、やはり労働力がどれだけ確保できるかという点で、私どもの事業所にとっても、仮に会社が成長した時に、それに伴って働きたいという人をどれだけ呼び込めるのかというのも大きなポイントになると思います。

実際に中井町の事業所というのは、我々の会社の中でも非常に人気のあるスポットで、東京よりもこちらで仕事をしたいという人も多いです。そういった面で、仕事そのものもそうですが、環境的にも魅力があるのかなと思います。また、キャリアプラン上、ずっとこちらで働くということも無いのですが、意外とこの周辺に生活拠点を置きながら単身赴任をするケースも多いです。アクセス的に東京に行くにも工場のある富士宮に行くにも車での通勤が可能であるということもあるでしょうし、中井町のみならず神奈川県の人気が相まって、魅力的であるということも要因だと思います。

もう一つ、会社として魅力的なのは、元々、中井町は研究開発の拠点ということでしたが、近年色々な機能が入ってきていまして、「3. 11」に学んで BCP (Business Continuity Plan: 事業継続計画) の面でも、非常に安定した土地柄だということもあり、会社のオペレーション機能もかなり持ってきております。そういった点でもまだまだ発展させていく余地があるのではないかと思います。

○杉本座長: ありがとうございます。企業として町に要望するものというのは、具体的に何かありますか。

○大槻副座長: やはりバランスだと思っております。おかげさまで、バスを中心として交通の方もネットワークが張られてきていまして、コンビニや近くに医療機関もできて、我々にとっては便利になってきています。そういったバランスというのは大切だと感じます。

○杉本座長: ありがとうございます。非常に良い意見を多く聞くことができましたが、時間の都合もありますので、次の議題に移らせていただきたいと思います。

3) 各種アンケート調査結果(速報)について(資料9)

○事務局： 資料9の説明に入る前に、先程お話のありました「RESAS」についてご説明させていただきます。「地域経済分析システム」は、略称「RESAS」と言いまして、一般にホームページで公開されている内容と、行政機関にしか閲覧できない内容がございます。ある程度のデータはありますが、国やデータの提供元である帝国データバンクの了承を得ないと活用できない部分も多く、そういった意味では非常に使い勝手が良くない。本社機能が集積している大きな自治体では企業の取引動向等について、データをある程度有効に活用することができると思いますが、本社でなく、事業所が集積しているエリアについてはあまり有効活用できないシステムという印象を受けます。（「RESAS」の説明は以上）

資料9により説明

○杉本座長： ありがとうございます。先程の皆さんからのご意見を裏付けるようなアンケート結果も出ておりますが、何かご意見はございますか。特にないようでしたら次の議題に移らせていただきます。

4)「第1回まちづくりカフェ」の報告について(資料10)

○事務局： 資料10により説明

○杉本座長： ありがとうございます。先程、まちづくりカフェの座長、副座長である瀬戸委員、武田委員からも、まちづくりカフェについてご意見いただきましたが、他に何かご意見ございますか。ぜひ、まちづくりカフェで出たご意見などをまとめて、事務局から次回の戦略みらい会議で資料提供いただきたいと思います。それでは、他にご意見等無いようでしたら、最後の議題に移らせていただきます。

5)今後のスケジュールについて(資料11)

○事務局： 資料11により説明

次回、戦略みらい会議の開催日時(9月16日(水) 10:00～)を提示

○杉本座長： 次回会議については、よろしいでしょうか。それでは、議題は以上となりますが、他に何かございますか。

お手元に「戦略みらい会議 事業提案シート」というものを事務局から配布させていただいております。次回会議までに、各委員から事業提案がございましたら、事前に事務局あてにご提出いただきたいと思います。

本日の会議では非常に貴重なご意見をいただきましたが、最も重要なのは、この会議で何を議論していくのかということだと思います。人口ビジョンはこの場でいくら議論してもあまり画期的なものは出てこないのではないかと思いますし、そういった面では、戦略みらい会議では内容を絞って、集中してこういったことを町としてやっていくべきだということを中心に、中井町は大きな都市でも無いですし、シティープライドを持って、持続可能な町にしていくことを主眼として議論を深めていくべきであると思います。それを結果として、人口ビジョンの方にも反映していくようなかたちに事務局の方でまとめていただければ良いと思います。

今は地域の資源を探して、それを磨いていく時代ですし、そういった点に絞っていききたいと思います。私としては中井町の豊かさというのは「里山」だと思います。里山というのは日本独自の自然観で、ヨーロッパなどにはないものです。里山というのは人が入ったことによる自然、逆に人が入らないと壊れてしまう自然です。中井町でも、先程の農地の話にもありましたがこれだけ豊かな条件を持っている。災害も少ない、そういった面で非常に住みやすいとか、企業の立地にとって良いというのは強みだと思います。これは非常に良いヒントになることでして、この環境を生み出しているのは里山だと思います。そこをいかに発信していくのか、私は中井町は神奈川県へのそだと思っていて、神奈川県の中でも独自性として里山の豊かさをもっと表現していくべきと考えています。また、実は企業にとっても地域と繋がっていく生活というのを多くの従業員の方は望んでいて、現在の企業の労働運動というのは賃金だけでなく、いかに生活の豊かさを求めるかという点に重点が置かれているそうです。例えば地域の農業体験であるとか、地域のイベントに参加したり、歴史を学んだりそういった活動に興味を持たれている方も多いと聞きます。中井町はそういった動きの受け皿になれるのではないかと思いますし、また、中井町と同様に近隣の二宮町、大磯町のように規模があまり大きくない自治体でも色々な課題があり苦労されていると思いますが、市町村が行政区分で区切られているエリアだけで、良い悪いというだけではなく、もう少し環境的に広域的に繋がっているところ、例えば井ノ口地区であれば秦野市の環境にも影響されますし、そういったところも考えていかないといけないと思います。中井町を行政区として単独で考えるのではなく、広域的な捉え方をすることで、また違った魅力が見つかると思います。例えば水・環境の側面から考えると分水嶺で区切ってみることで、水をどのエリアでシェアしているのか、それを経済指標の中で置き換えると中井町の優位性が見えてくるかもしれません。先程の地区ごとの人口では、井ノ口地区は増えているけれども、中村地区では減少している。それでは中村地区ではどのように安定的に集落を持続させていったら良いかといった戦略を特色として出していくこともできるでしょうし、そういった議論をこの会議でしていきたいと思います。先程お願いした提案書についても、かなり尖っ

たご提案でも良いのではないかと思います。いくら計画書を分厚く立派に作っても町としての本音が反映されないものでは、今の時代あまり意味の無いものになってしまいます。ぜひ尖った意見を次回の会議でいただいて、そこから絞っていく方向で進めていきたいと思いますので、よろしく願いいたします。

それでは、本日は、多面にわたって委員の皆様から、貴重なご意見をいただきました。本日の会議は以上といたします。

以 上